

概要			中和地域にある多様な環境要素や社会的要素を大きな繋がり(旭川水系など)の中で捉え直し、自分の方法で文脈化体系化し、地域特性を「地域を支える基本構造」として捉え直すことで、地域への理解を深め、問題解決能力や生きる力を育む。総合学習を軸にした各教科との関連づけを意識しながら、地域特性を生かした問題解決や地域づくりの提案へと発展させていく。地域の問題や課題を構造的に捉える科学的かつ論理的な思考を身に付けることで、具体的に説得力のある提案を作り上げる力を養う。自分たちの提案を実現するために生かせそうな地域の自然環境や産業、生産物を見つけ出し、それらに新たな価値づけを行い地域ブランドの創出につなげていく。地域の価値を理解し、資源を結び付け文脈化する力を身に付け、地域で生きることへの展望を持つ。	
全体のねらい			・相手(生き物や他人)の立場に立つことで自分では気づくことができなかった問題や課題を発見する。(課題の設定) ・実際に生物が生息する環境に触れる、観察する。(新たな繋がり発見。情報の収集) ・生息地の観察や地元住民からの聞き取り等によって得た情報を整理して地域特性や問題の構造を浮き彫りにする。学習によって得た個々の情報や知識を大きな繋がりの中に位置付け体系的に捉え直す。(情報の整理・分析) ・旭川の他地域(下流瀬戸内地域)との交流を通して地域特性への理解を深める。(交流、情報の整理・分析) ・地域特性(全体を支える構造)を生かした問題解決方法を考え提案する。問題解決型から価値創造型(商品開発やブランド化)への発想転換(まとめ・表現) ・地域の価値・可能性を発見し、地域へ主体的に働きかける(生きる力)地域の担い手となる自覚。問題解決型から価値創造型への発想転換を促し、創造的でポジティブな生き方を学ぶ。地域で生きる意味を自ら見出す力。	
	時期	単位	ねらい	
1	4月	教室(2)	『生きものとお話しよう!』～生き物の目になって地域のお宝探しをしよう!～ 動機づけ 生き物とお話する方法を学ぶ(他者の立場に立ち、理解することの意味を学ぶ) ①身近な生き物(トンボ、カエル、カブトムシ等)を題材に体のつくりと住処(環境)と暮らし(生態)には関係があることを学ぶ。 ②それぞれの生き物にはそれぞれの読み方で環境を読み込み、生存に必要な繋がり(ありがたいのつながり)を見つけながら生きていることを知る。 ③それぞれの生き物を支える繋がり(ありがたいのつながり)があることを理解する。 ④地元には、他地域にはない固有の特性があるのではないかと気づかせる。⑤地域に生きる人々も地域特性を持ったありがたいのつながりに支えられて生きている存在であることに気づく。⑤地域の豊かさ、地域のお宝はありがたいの繋がりから生まれる。⑥地域が抱える問題も、ありがたいの繋がりやお宝の力で解決できるかもしれない。⑦ありがたいの繋がり大切さを地域の人達にどうやって伝えていけばいいか? 問いを投げかける。(地域ブランドづくりへ)	
2	5月	教室(1) 野外(1)	『中和を覆うありがたいの繋がりを探しに行こう!』 中和は、岡山県を北の山地から南の瀬戸内海に流れる旭川の最上流部にある。川の上流にある自分たちの地域にはどのような特色があって、どのような動植物がいるのか、森や川にはどのような特色があるのか考えてみよう。川は山と海を結ぶ生き物の道にもなっている。真庭市の森林面積や河川群。 ①前回の学習を生かして、見られる動植物の観察を通して地域の特色に気づく。 ②川の上流部には下流部とは違う、どのような環境があるのか考えるきっかけを与える。 ③川は、山と海にどのような繋がりを生み出しているのだろうか。	
			生き物の体のつくりすみか暮らしから中和の環境の特色を知る。 教室の授業の後に、学校周辺の森や川に行って地域に広がる生き物の道の存在を実感する。そこで見られた生き物や自分たち人間も、地域を支える大きな繋がりの中にあることを感じる。土地や風景の中に繋がりを見つけ出そうとする動機付けを行う。 ※下流、干潟の生き物を紹介して上流の生き物との違いを考える。例)サワガニと干潟の蟹(ハクセンシオマネキ等)とのすみかや暮らしの違い。	
3	6月	野外(2)	『中和の人と自然を支えるありがたいの繋がりを探しに行こう!』 色々な生き物の目になって地域の森や川、田畑などの環境を実際に見に行き、地域の特性を理解する。ササユリやカエル、トンボ、多雪地域に特徴的な植物などを例に、それらの生物と環境、人々の暮らしとの繋がりを感じ取る。 ①様々な生き物の目になって環境を見直す。 ②生き物の道がどのように繋がっているのか評価する。 ③観察に行った場所に生き物の生存を支えるありがたいのつながりは有るのか? 問題や課題を考える。話し合う。 ④ササユリやウスバシロチョウと地域の気候や環境との関係 ※問題状況の中から課題を発見し設定する(新学習指導要領 各学校において定める内容:探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力)	
4	6月	教室(1) 教室(1)	『ありがたいの繋がり今と昔』『昔の中和の自然と暮らし』 ①生き物が生息する森や川に行き、生徒たちが気付いたり感じたりしたことを出し合う。それぞれの生き物を支えるありがたいの繋がりイメージマップにして共有する。森が持っている課題や問題を考える。②昔の町の環境について話を聞いてイメージマップに手を加える。③昔あって今は無いありがたいの繋がり要素を見つけ、問題や課題として抽出する。 (例)ササユリが昔中和のどこでも見られたのはなぜか? ササユリの生育を支えていた人の暮らし(牛や採草、炭焼きなど)や自然環境との繋がりなど。 広大な面積を占める森林を生かした暮らし。清く豊かな水を生かした暮らしなど。	
5	9月	野外(1)	『中和を支えるありがたいの繋がりを探しに行こう!』 ①それぞれの生き物を支えるありがたいの繋がりイメージマップにして表現する。 ②生き物を支えるありがたいの繋がりの中に人々の暮らしの要素も含まれていることを理解する。 ③森が抱えている問題を繋がりの中から抽出する。 ④中和の土地の豊かさは、地域全体を覆う大きなありがたいの繋がりや旭川を通してうみにまで広がる繋がりによって支えられていることを知る。 ⑤その大きな繋がりの中に自分たちも含まれていることに気づく。 ※地域の人、物ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報をもとに考えたりする力を身に付けるとともに考えたことを根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける(新学習指導要領 各学校において定める目標)	

		2)		自然林が残る不動の滝周辺を観察に行く。多雪地帯特有の植生（日本海植生）、積雪に適応した植物の体の作りや暮らし（頑張らない木、積雪を防寒に利用する野草）。積雪の無い旭川下流域、瀬戸内地域の植生との違い。地域の特色を踏まえて多様な生物が生息する環境を実感する。 自然の森が雪解け水や降雨を地下に浸透させ川の源となること。中和を流れる川では、大雨が降っても中下流のように水があまり濁らないのはなぜか。中和の自然の豊かさや特色をより理解する。中和を流れる川が、中下流域にどのような恵みを及ぼしているかを考える。源流域の森と地域内の他の森との比較をして、どのような課題があるかを考える。中和の自然の特色や豊かさを十分に生かした暮らしや地域づくりが行われているかを考える。 ※今後気候変動によって積雪が減少することが予想されると中和の環境にも影響が及ぶ可能性がある。温暖化対策の学習への展開も可能	①川の環境を維持するために周囲の森が果たしている役割を理解する。 ②自然林や源流部の自然を観察して、中和本来の自然環境やその環境を地域の人々がどのように生かして暮らしてきたのかを考える。<u>今私達はどのような特色を生かしているか？</u> ③森・川・海の繋がりの大切さを知る。 ④中和の豊かさは、どのような大きな繋がりによって支えられているかを考える。 ⑤大きな繋がりの中に自分たち暮らしも含まれていること、繋がりを生かすことでより豊かな暮らしが実現できるのでは？ ⑥地域の豊かさを持続させるために。どのような取り組みが必要かイメージを掴む。 ※地域の人ものことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり調査して得た情報をもとに考えたりする力を身に付けるとともに考えたことを根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける（新学習指導要領 各学校において定める目標）
6	9月	教室（2）	『これまでの学習の振り返り』	これまでの学習を通して気付いたことを話し合い、中和を支えるありがとうの繋がりを表したイメージマップに手を加える。出来上がったイメージマップを見ながら問題や課題を抽出し、豊かな自然と共に生きていく上で必要なことについて話し合う。	①これまで学習してきた要素を文脈化して捉え直す。 ②パラパラに見えていた環境要素や問題や課題を結びつけて考える方法を学び、体系化する思考を身につける。 ③広い視野で問題を捉える。地域の環境を作る基本的な構造（水系）を理解し、地域全体の環境を改善する方法を考える。 ④地域の成り立ちを構造的に理解して、問題解決に向けて地域に潜在する可能性に気づく。 ⑤問題解決に必要な具体的な取り組みをイメージし共有する。
7	10月	教室（2）	中和と旭川流域に、ありがとうの繋がりを増やし	ありがとうの繋がりを地域全体に上げていく具体的な方法を話し合う。地域のお宝はありがとうの繋がりの中から生まれてくること。ありがとうのつながりを増やし街全体を覆うことができれば、持続可能な真の豊かさが得られることを理解して未来のビジョンを描く。地域資源を生かした物づくりや活動を通して、ありがとうの繋がりを増やしていくことができる。問題解決に向けたポジティブかつ価値創造的な発想、アプローチ。 ※（下流域瀬戸内の小学校との交流授業）他地域との交流を通して地域間の違いを見つけ、中和の特色をより理解する機会とする。	①ありがとうの繋がりに生まれる本当に良いもの（お宝）を増やすことで問題を解決できるという発想を得る。 ②ありがとうの繋がりを町全体に広げるベースとなる基本構造（水系）があることを理解する。 ③地域や日が持つ潜在的可能性に目を向けポジティブな姿勢で問題解決に取り組む姿勢を育む。（問題解決型から価値創造型への発想転換） ③地域にあるものや産業や人や組織をありがとうの繋がりの中で掘り起こし捉え直す（付加価値の創出、ブランド化など） ④地域の環境を支える基本的な構造や構成要素、関係性を理解し、科学的な視点で論理的に提案をまとめる力を養う。
8	11月	教室と野外（4）	『人も自然も喜ぶ街づくりを提案しよう！』	中和を支えるありがとうのつながりを広げる方法、ありがとうのつながりを増やすための具体的な方法（お宝）を自分たちの言葉や表現で伝える。 ありがとうのつながりの繋がりを取り戻し増やすことで生まれる地域の新たな可能性や価値を、特産物など、モノやコトを通して伝える。これまでの学習を通して感じたこと思ったこと、自分の中で起きた変化など、発見したことを基に、自分たちが描く地域の未来像を発表する。	①本当に良いもの（ありがとうのつながり）を増やす具体的な物や方法を考え伝える。 ②学びを通して自らが気づいた地域の価値や特色を自分の方法で伝える。地域ブランドづくりなどの提案。 ③発信力（自分の考えや思いを人に伝えたい）・生きる力（地域で生きる自信）を養う。 ④地域全体を考え全体の価値を上げる発想や思考を身に付ける。 ※（新学習指導要領 各学校において定める目標） 地域の人ものことについての探求的な学習に主体的・協働的に取り組むと共に互いの良さを生かしながら持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え自ら社会に参画しようとする態度を育てる。
『展望』				地域に根ざした探求的な学習をととして地元の良さや特色（基本的な構造）に気づき、それらを新たな文脈（中和→真庭市→旭川流域→瀬戸内海など様々な視野）で結びつけ関係付ける。地域のモノやコトに新たな価値（付加価値）を生み出す方法を学んだことで、生徒達が地域の良さや特性（豊かな森林資源、豊かな水資源、生物多様性、景観、自然を生かした暮らしの文化と歴史など）をよく理解することで、それらを積極的に生かし自らの生き方（将来像・キャリア）を地域の未来の中に描けるように育成する。 地域全体を視野に入れ、問題や課題を大きな文脈の中で構造的に捉え直し、様々な要素と関連づけ、科学的かつ論理的に思考を組み立てることができる人、地域資源を生かした持続可能な地域づくりの担い手を育てる。	総合的な学習の時間 第一の目標 探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、より良く課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習の良さを理解するようにする。 ②実社会や実生活の中から問いを見い出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 ③探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。